

平成25年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

- 1 実施地区：釧路市
- 2 研修者氏名：奥田泰朗（釧路市立朝陽小学校）
- 3 研修実施日：平成25年11月29日（金）
- 4 研修先：三重県松阪市小野江小学校
- 5 研修目的：学力向上に対する取組を研究校から学ぶ
- 6 キーワード：三重県の取組と訪問校の改善プラン

1 はじめに

目的を学力向上に絞って訪問した。校長の指導のもと、全ての学級を公開できる雰囲気を作り出している姿にふれることができた。道外研修の機会を与えていただいたことに感謝したい。

2 松阪市及び小野江小学校の概要

松阪市は三重県の中部に位置している。人口17万人ほどの市である。現地の校長によると、北部に行くほど（名古屋に近くなるほど）学力が高いそうである。

小野江小学校は松阪市の最北にあり、川を越せば津市になる。平成の大合併で松阪市と合併した地区の小学校である。名古屋あるいは大阪まで1時間という条件から急激に人口が伸びている。昔からずっと学年1学級の学校が、数年後に全て2学級になるということで、増築工事が行われていた。なお、この地は、北海道および14支庁の名付け親、松浦武四郎の生地であり、小学校の隣に記念館があつて、退職校長が館長になっていた。



3 学力向上に向けた三重県の取組

訪問する前に学力向上に関する資料をお願いしていたので、三重県教育委員会から出されている冊子やパンフレットなどを事前に目を通すことができた。抜粋して紹介する。

「子どもたちが学ぶ喜び、わかる楽しさを実感」

◇確かな学力を身につける授業の改善

「ともに学び高め合う学習集団」の構築

- ・協同的な学習活動
- ・安心して学べる学習環境づくり

「わかる授業」の創造

- ・一人一人の理解や習熟の程度に応じた指導
- ・知識・技能を活用する力を育成するための言語活動の充実
- ・教材研究の充実（ICT機器の活用）

◇指導力を高める研修の推進

充実した研修の推進

- ・授業改善を中心とした校内研修の実施
- ・教員同士が互いの授業力を磨こうとする態度の醸成
- ・異校種間の情報共有による研修の実施
- ・外部講師等の活用による研修の充実

◇組織的に取り組む学校体制の確立

学力の向上に向けた検証改善サイクルの確立

- ・学力向上計画の作成→実施→検証→改善
- ・全国学力・学習状況調査の活用

統一した取組

- ・授業スタイルの統一
- ・学校で統一した家庭学習などの取組

◇家庭・地域との連携の強化

学習支援

- ・授業の学習補助・放課後などの学習指導

学校運営への参画

- ・コミュニティ・スクールの導入
- ・学校評価の充実

情報共有

- ・全国学力・学習状況調査結果や具体的な取組についての情報発信

学習環境の整備

- ・生活習慣の改善
- ・家庭学習の習慣化

4 小野江小学校研修委員会からの提案

上記を受けて、研修委員会（部）から、非常に具体的な提案が出されている。

◇校内研修で、学力向上に関して話し合われたこと

- ・授業の最後に学習の「まとめ」「ふりかえり」を行うことは効果的である。
- ・授業のはじめに「ねらい」を提示する。
- ・ノート指導を全学年で統一することも考えたい。
- ・学校の学力向上の方針を学校長が中心になって、保護者に伝えていく。

◇提案

- ・全学年で行い、「ふりかえり」「まとめ」など統一した呼び方にする。
 - ・国語科は「ねらい」に関して、「自分は初めはこう思っていたが、友だちの意見などを聞いて、このような理由でこう考えるようになった。」など、思考の変遷が分かるように書かせる。
 - ・算数科では、大事なことや、分かったこと、できるようになったことを中心に書かせる。
 - ・社会科や理科や「総合」は、内容によって、国語科のやり方や算数科のやり方のどちらかを用いて書かせる。
 - ・体育科や音楽科は書かせてもよいが、授業の感想やできるようになったことを意見交流させる。
 - ・時間があれば、幾人かの児童の「ふりかえり」を発表させる。書かせたものは指導者が目を通す。
- ※さらに提案は、家庭学習の進め方、宿題のやり方、家庭へのお願いと続く。

5 小野江小学校の改善取組アクションプラン

提案などのまとめとして提示された、改善取組アクションプランを紹介する。

◇改善テーマ

- ・日常の授業や取組の中で、子どもたちが「楽しい」「わかる」と夢中になれる授業づくり。
- ・家庭との連携を進めることで、子どもたちが意欲をもって学習・活動ができる環境が整い、結果として学力の向上につながる学校。

◇実現したい状態目標

- ・学習・活動を行うとき、一定の共通した進め方が教職員の中で共有されており、指導者が代わっても一から指導しなくても進めることができる。
- ・家庭との連携が密になることで、協力を得られやすい状況になる。

◇目標を達成するための方針

- ・効果的で取り組みやすい学習・活動の進め方を出し合い、研修委員会が中心になって、全学年で統一して取り組めるものを決める。また、保護者に学校方針を提示したり、取組を紹介したりすることで、家庭生活や家庭学習での協力を求めやすくできる状況をつくる。

◇チームメンバー

- ・研修委員会（学校長・教頭・研修委員）、授業改善アドバイザー



①

6 おわりに

印象的だったことを紹介して、レポートを閉じる。①教員も子どもたちも、たいへんな歓迎ムードだったこと。②授業ではごく普通にICTを使っていたこと。③全校で給食を食べる部屋があること。④6年間使う、自分の机と椅子であること。⑤学校の水道水は飲み水ではないこと。



②



③



④



⑤